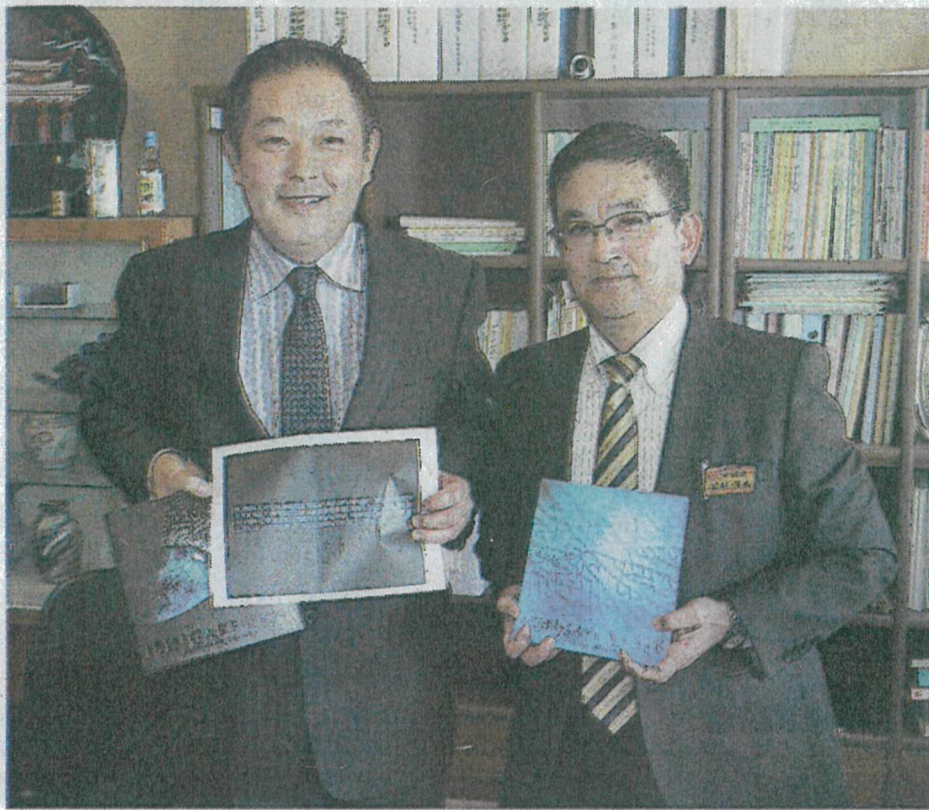




石垣焼窯元に金賞 フランスの美術展2部門で

八重山日報

発行所 (株)八重山日報社
〒907-0023 沖縄県石垣市宇石垣159

お問い合わせ
購読・配達 (0980)82-2403
広告の申込 82-7059
話題・情報 82-1738
FAX 82-8122

本島支局
〒901-1104 南風原町字宮平641 TKビル401
TEL (098)911-5292 FAX 911-5293
[E-mail] nippo-j@alto.ocn.ne.jp

合同会社石垣焼窯元代表社員の金子晴彦氏(55)が7日午後、県庁を訪れ、2015年12月にフランスのパリで開催された、サロン・ソシエテ・ナショナル・デ・ボザール(S NBAフランス国立美術協会)主催の「カルーセル・ルーブル展」で金賞を受賞したことを報告した。金子さんは「小さな焼き物屋でも、哲学と信念があれば世界トップに

石垣焼窯元の金子晴彦代表社員(左)が県に受賞報告を行った。7日午後、県庁

たどり着ける。夢や希望を持って取り組みたい」とあいさつした。同社は陶器で作った板(陶板)128枚を配置したアート作品「Silent Blue」(高さ3.3m、幅12.8m)を出展し、審査員賞インスタレーション部門金賞とSNBAインスタレーション部門金賞の2つを受賞した。

述べた。県商工労働部の宮城行夫産業雇用統括監は「県の工業製品がアジアだけでなくヨーロッパでも通用すると証明された。これからの活躍を期待し、今後の県の取り組みにも参加してほしい」とあいさつした。

また金子さんは「陶芸作品の受賞はフランスアート史で初めての快挙。陶芸家にとってクラフトアート以上の評価を得たというのは朗報です」と喜び「これを出発点にして新たな作品制作に励みたい」と意気込んだ。

石垣焼窯元は2014年度の県事業「県産工業製品海外販路開拓事業」に採択を受け、2年間県の補助を得て活動。受賞に直接関連はないが「現地に行つてわかることは多い。単独で取り組むと30年かかることが支援事業のおかげで2年間でできたと思う」と感謝を